



2025年10月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年6月13日

上場会社名 くら寿司株式会社 上場取引所 東
コード番号 2695 URL <https://www.kurasushi.co.jp/>
代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 田中 邦彦
問合せ先責任者 （役職名） 取締役広報宣伝・IR本部長 （氏名） 岡本 浩之 TEL 072-493-6189
半期報告書提出予定日 2025年6月16日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年10月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年11月1日～2025年4月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年10月期中間期	117,625	1.3	2,903	△48.5	2,993	△50.1	1,955	△50.5
2024年10月期中間期	116,071	14.0	5,636	—	5,996	—	3,948	—

（注）包括利益 2025年10月期中間期 1,865百万円（△60.3%） 2024年10月期中間期 4,705百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年10月期中間期	49.19	49.18
2024年10月期中間期	99.35	99.31

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年10月期中間期	150,042	83,758	40.3
2024年10月期	139,446	72,946	40.5

（参考）自己資本 2025年10月期中間期 60,519百万円 2024年10月期 56,424百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年10月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2025年10月期	—	0.00			
2025年10月期（予想）			0.00	20.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2024年10月期 期末配当金40円00銭には、記念配当20円00銭が含まれております。

3. 2025年10月期の連結業績予想（2024年11月1日～2025年10月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	243,000	3.4	5,000	△12.3	5,200	△16.5	3,400	5.4	85.55

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年10月期中間期	41,399,600株	2024年10月期	41,399,600株
--------------	-------------	-----------	-------------

② 期末自己株式数

2025年10月期中間期	1,655,077株	2024年10月期	1,660,997株
--------------	------------	-----------	------------

③ 期中平均株式数（中間期）

2025年10月期中間期	39,741,529株	2024年10月期中間期	39,743,849株
--------------	-------------	--------------	-------------

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提条件その他関連する事項につきましてはP3「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等の注記)	7

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2024年11月1日から2025年4月30日)におけるわが国経済は、欧州や中東情勢の長期化など世界的な情勢不安の継続や不安定な為替変動、米国における消費減速や新政権における通商政策などの政策動向、中国における不動産市場の停滞などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。外食産業全般におきましても、米をはじめとした原材料価格や人件費の上昇等、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、特許技術である抗菌寿司カバー「鮮度くん」を開発・設置しているだけでなく、お客様が入れ替わるごとに醤油差しなどの備品を入れ替えるクリーンテーブル、従業員の技術や接客等を競うコンテストを定期開催して「おもてなし力」を向上させ続けるなど、安心・安全で快適なお食事をしていただくためのさまざまな取り組みを行っています。また、大手回転寿司チェーンの中で唯一、回転レーンでお寿司を提供しているということだけでなく、業界初となる日頃の感謝を伝えるサプライズサービス「プレゼントシステム」を開始するなど、エンターテインメント性を進化させ続けており、回転寿司本来の手軽さと楽しさを追求しております。

店舗開発につきましては、国内4店舗、米国9店舗、台湾1店舗の計14店舗を出店いたしました。この結果、当中間連結会計期間末の店舗数は、全て直営で685店舗(「無添蔵」4店舗、「くらおさかな市場」1店舗、米国73店舗、台湾59店舗、上海3店舗を含む)となりました。

セグメント業績は次の通りであります。

①日本

日本国内におきましては、米をはじめとした原材料価格や人件費の上昇はあるものの、愛媛県の海の幸やフルーツを揃えた「愛媛県」フェアなどの質の高い商品を中心にしたフェア、バレンタインやひな祭りの時期には、高級なベルギー産のチョコレートを使用したスイーツや華やかなちらし寿司を展開いたしました。当社のCMに出演頂いているダウNTOWN浜田雅功さんたちと一緒に考えた「ナンでやねん!?寿司 浜田のくちびるII」は大変話題となりました。また、人気ゲームキャラクター「ポケモン」など話題性の高いコンテンツとのコラボ企画の実施により、売上高は順調に推移いたしました。

4月13日に開幕した大阪・関西万博の会場内に、当社史上最大規模の店舗「大阪・関西万博店」をオープン。通常の寿司メニューに加え、70の国・地域を代表する料理を再現したメニューを提供しており、連日、世界各国の多くのお客様で賑わっております。併せて、70種類の再現メニューとお寿司を特別仕様の抗菌寿司カバーに入れて回転ベルトで流す「ハンズ・ハンズPROJECT」の一環として、全国のくら寿司各店でも70種類の再現メニューを1商品ずつ販売しており、万博の盛り上がりを全国に波及させています。

出店につきましては「大阪・関西万博店」を含む4店舗を新規出店いたしました。

また、当社は財務戦略を重視し、さまざまな事業リスクに対応してまいりました。当社におきましては、前事業年度に引き続き実質無借金(現預金の額が有利子負債を上回ること)にて運営しており、当中間会計期間末の自己資本比率は66.8%と財務の健全性を維持しております。

この結果、売上高859億28百万円(前年同期比1.9%減)、経常利益34億82百万円(前年同期比40.4%減)となりました。

②北米

米国子会社 Kura Sushi USA, Inc. (KSU) におきましては、積極的な新規出店とコラボ企画の展開により売上高は前年を上回って推移いたしました。カリフォルニア州の長期にわたる山火事や中部、東海岸を中心とした厳しい寒波の影響を受けました。出店につきましては、カリフォルニア州「パークレー店」、テキサス州「フォートワース店」、ニュージャージー州「ガーデンステートプラザ店」等を新規出店し、順調に店舗展開を図っております。また、日本と連携し予約受付システムを導入するなど、利便性強化にも努めております。

この結果、売上高196億5百万円(前年同期比21.9%増)、経常損失7億2百万円(前年同期は経常損失4億37百万円)となりました。

③アジア

台湾子会社 亞洲藏壽司股份有限公司(KSA)におきましては、日本でも人気の「クレヨンしんちゃん」、「カナヘイの小動物」とのコラボ企画を展開し、大変好評いただきましたが、需要期である春節期間において、海外への渡航者が増えたことによる影響を受けました。また、出店につきましては、2024年11月新北市に「板橋遠科店」を新規出店しております。

この結果、売上高122億39百万円(前年同期比2.0%減)、経常利益は2億13百万円(前年同期比64.2%減)となりました。

以上の結果、当中間連結累計期間の業績は、売上高1,176億25百万円(前年同期比1.3%増)、経常利益29億93百万円(前年同期比50.1%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は19億55百万円(前年同期比50.5%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における資産総額は、1,500億42百万円となり、前連結会計年度末と比較して105億96百万円増加いたしました。これは、主に現金及び預金が27億97百万円、有形固定資産が45億90百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して2億15百万円減少し、662億84百万円となりました。これは、主に未払金が4億19百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、連結子会社の増資に伴い、資本剰余金が35億88百万円、非支配株主持分が63億26百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して108億11百万円増加し、837億58百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが44億83百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが80億61百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが66億88百万円の収入となりました。この結果、当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)残高は、期首より27億97百万円増加し、258億41百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動の結果得られた資金は44億83百万円(前年同期比56.9%減)となりました。これは、主に税金等調整前中間純利益が27億39百万円であったことに加えて、減価償却費が52億70百万円あった一方で、法人税等の支払額が13億35百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は80億61百万円(前年同期比46.7%増)となりました。これは有形固定資産の取得による支出が51億97百万円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動の結果得られた資金は66億88百万円(前年同期は23億55百万円の支出)となりました。これは、連結子会社の増資による収入が99億88百万円あった一方で、リース債務の返済による支出が18億3百万円、配当金の支払額が15億85百万円あったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月11日に公表いたしました業績予想につきまして、現在のところ変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2024年10月31日)	当中間連結会計期間 (2025年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,043	25,841
売掛金	5,672	6,139
原材料及び貯蔵品	3,016	2,880
その他	2,574	3,190
流動資産合計	34,307	38,052
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	38,004	39,825
使用権資産(純額)	28,759	31,705
その他(純額)	22,606	22,430
有形固定資産合計	89,370	93,960
無形固定資産	1,573	1,752
投資その他の資産		
投資有価証券	-	2,260
長期貸付金	5,103	4,916
差入保証金	7,302	7,486
その他	1,789	1,613
投資その他の資産合計	14,195	16,276
固定資産合計	105,139	111,990
資産合計	139,446	150,042
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,150	7,807
短期借入金	1,130	1,081
未払金	9,268	8,849
未払法人税等	1,949	1,495
その他	10,478	8,893
流動負債合計	30,978	28,127
固定負債		
リース債務	31,338	34,099
資産除去債務	3,218	3,274
その他	965	783
固定負債合計	35,521	38,157
負債合計	66,499	66,284
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005	2,005
資本剰余金	10,900	14,489
利益剰余金	42,726	43,091
自己株式	△2,003	△1,996
株主資本合計	53,628	57,590
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,795	2,928
その他の包括利益累計額合計	2,795	2,928
新株予約権	1,932	2,323
非支配株主持分	14,589	20,915
純資産合計	72,946	83,758
負債純資産合計	139,446	150,042

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
売上高	116,071	117,625
売上原価	47,528	48,097
売上総利益	68,542	69,527
販売費及び一般管理費	62,906	66,624
営業利益	5,636	2,903
営業外収益		
受取利息	295	290
受取手数料	97	86
為替差益	97	-
雑収入	68	80
営業外収益合計	558	457
営業外費用		
支払利息	180	191
為替差損	-	161
雑損失	19	15
営業外費用合計	199	367
経常利益	5,996	2,993
特別損失		
固定資産除却損	30	25
店舗契約解約損	23	-
減損損失	3	228
特別損失合計	57	253
税金等調整前中間純利益	5,939	2,739
法人税、住民税及び事業税	2,043	1,098
法人税等調整額	33	101
法人税等合計	2,076	1,199
中間純利益	3,862	1,539
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△86	△415
親会社株主に帰属する中間純利益	3,948	1,955

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
中間純利益	3,862	1,539
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	-
為替換算調整勘定	837	326
その他の包括利益合計	842	326
中間包括利益	4,705	1,865
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	4,368	2,088
非支配株主に係る中間包括利益	336	△222

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	5,939	2,739
減価償却費	5,088	5,270
減損損失	3	228
受取利息	△295	△290
支払利息	180	191
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△472	147
売上債権の増減額 (△は増加)	△699	△450
仕入債務の増減額 (△は減少)	602	△364
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△213	△860
その他	657	△873
小計	10,790	5,738
利息の受取額	276	271
利息の支払額	△180	△191
法人税等の支払額	△478	△1,335
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,408	4,483
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△517	—
有価証券の償還による収入	887	—
有形固定資産の取得による支出	△5,189	△5,197
無形固定資産の取得による支出	△142	△321
投資有価証券の取得による支出	—	△3,828
投資有価証券の償還による収入	—	1,515
貸付けによる支出	△273	—
差入保証金の差入による支出	△276	△221
差入保証金の回収による収入	34	35
その他	△18	△44
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,495	△8,061
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△46
リース債務の返済による支出	△1,821	△1,803
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△795	△1,585
ストックオプションの行使による収入	261	135
連結子会社の増資による収入	—	9,988
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,355	6,688
現金及び現金同等物に係る換算差額	303	△312
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,860	2,797
現金及び現金同等物の期首残高	18,940	23,043
現金及び現金同等物の中間期末残高	21,801	25,841

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。これによる中間連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前中間連結会計期間(自 2023年11月1日 至 2024年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	87,487	16,088	12,495	116,071	—	116,071
外部顧客への売上高	87,487	16,088	12,495	116,071	—	116,071
セグメント間の内部 売上高又は振替高	143	—	—	143	△143	—
計	87,630	16,088	12,495	116,214	△143	116,071
セグメント利益又は 損失(△)	5,838	△437	594	5,996	—	5,996

(注) セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の経常利益と一致しております。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	85,780	19,605	12,239	117,625	—	117,625
外部顧客への売上高	85,780	19,605	12,239	117,625	—	117,625
セグメント間の内部 売上高又は振替高	147	—	—	147	△147	—
計	85,928	19,605	12,239	117,773	△147	117,625
セグメント利益又は 損失(△)	3,482	△702	213	2,993	—	2,993

(注) セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の経常利益と一致しております。